

平成 29 年 度

幼稚園教員資格認定試験

教職に関する科目(Ⅱ)

### 注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 29 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。  
ただし、受験科目のマークについては、幼稚園の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。  
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 60 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 20 年文部科学省告示第 26 号)「第 2 章 ねらい及び内容  
健康 3 内容の取扱い」の一文である。文中の( ① )～( ③ )に当てはまる語句の組合せ  
として正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での( ① )に配慮し、幼児の( ② )を育て、  
幼児が他の幼児とかかわりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な( ③ )を身に付  
けるようにすること。

	①	②	③
ア	生活経験	意欲	態度
イ	しつけ	意欲	習慣
ウ	生活経験	自立心	習慣
エ	しつけ	自立心	態度

問 2 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 20 年文部科学省告示第 26 号)「第 2 章 ねらい及び内容  
表現 3 内容の取扱い」の一文である。文中の( ① )～( ③ )に当てはまる語句の組合せ  
として正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児の自己表現は( ① )な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を( ② )  
し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で( ③ )様々な表現を楽  
しむことができるようにすること。

	①	②	③
ア	素朴	受容	幼児らしい
イ	明確	受容	工夫された
ウ	素朴	促進	工夫された
エ	明確	促進	幼児らしい

問 3 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 20 年文部科学省告示第 26 号)「第 3 章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 第 1 指導計画の作成に当たっての留意事項 1 一般的な留意事項」の一文である。文中の( ① )～( ③ )に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

環境は、具体的な( ① )を達成するために適切なものとなるように構成し、幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活動を展開しつつ必要な( ② )を得られるようにすること。その際、幼児の生活する姿や( ③ )を大切にし、常にその環境が適切なものとなるようにすること。

	①	②	③
ア	ねらい	学 び	意 欲
イ	課 題	学 び	発 想
ウ	ねらい	体 験	発 想
エ	課 題	体 験	意 欲

問 4 次の①～④の各文は、「幼稚園教育要領」(平成 20 年文部科学省告示第 26 号)「第 3 章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 第 2」に示された記述である。教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項を示したこれらの文のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 地域の実態や保護者の要請により、教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者を対象に行う教育活動については、幼児の心身の負担に配慮すること。
- ② 教育課程に基づく活動を考慮し、幼児期にふさわしい無理のないものとなるようにすること。その際、教育課程に基づく活動を担当する教師は独自の計画を設定すること。
- ③ 家庭や地域での幼児の生活も考慮し、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の計画を作成するようにすること。その際、地域の負担にならぬよう、体験を絞り込んで実施すること。
- ④ 地域の実態や保護者の事情とともに幼児の生活のリズムを踏まえつつ、例えば実施日数や時間などについて、弾力的な運用に配慮すること。

	①	②	③	④
ア	○	×	○	×
イ	○	×	×	○
ウ	×	○	○	×
エ	×	○	×	○

問 5 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成 20 年 10 月)「序章 第 2 節 幼児期の特性と幼稚園教育の役割 1 幼児期の特性 (2) 幼児期の発達」に示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する時期である。
- イ 幼児期は、信頼や憧れをもって見ている周囲の対象の言動や態度などを模倣したり、自分の行動にそのまま取り入れたりすることが多い時期である。
- ウ 幼児期は、次第に自分でやりたいという意識が強くなり、信頼できる保護者や教師などの大人への依存的な行動が見られなくなる時期である。
- エ 幼児期は、環境と能動的にかかわることを通して、周りの物事に対処し、人々と交渉する際の基本的な枠組みとなる事柄についての概念を形成する時期である。

問 6 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成 20 年 10 月)「第 3 章 指導計画及び教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動などの留意事項 第 1 節 指導計画の作成に当たっての留意事項 第 3 節 特に留意する事項 5 小学校との連携」に示された記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 子どもは小学校入学と同時に突然違った存在になるのではなく、子どもの発達と学びは連続していることから、なるべく早いうちから小学校の教育内容とその評価を幼稚園に取り入れることが大切である。
- イ 幼児と児童にとって意義のある交流活動とするには、相互のねらいや方法などを踏まえ、継続的・計画的に取り組むことが大切である。
- ウ 子どもの発達と学びの連続性を確保するためには、幼稚園、小学校の教師が共に幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。
- エ 幼稚園教育と小学校教育はその指導方法の違いのみでなく、共通点について理解することも大切である。

問 7 次の文は、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成 27 年 2 月)「第 1 章 総則 第 2 節 教育及び保育の内容に関する全体的な計画の作成」の一文である。文中の( ① )・( ② )に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

教育及び保育の内容に関する全体的な計画の作成に当たっては、認定こども園法、教育基本法、児童福祉法、学校教育法及び( ① )等の法律の他、これらに関係する政令や省令、そして、教育・保育要領により、種々の定めがなされており、これらに従って作成しなければならない。その際、各幼保連携型認定こども園では、( ② )の責任の下、全職員が協力し、作成に当たる必要がある。

- |   | ①       | ②      |
|---|---------|--------|
| ア | 学校保健安全法 | 園 長    |
| イ | 学校図書館法  | 主幹保育教諭 |
| ウ | 学校保健安全法 | 主幹保育教諭 |
| エ | 学校図書館法  | 園 長    |

問 8 文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』(平成22年7月改訂)に示された保育における評価について適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 保育における評価においては、実際に幼児が生活する姿から発達の全体的な状況、よさや可能性などを捉えることが大切である。
- イ 保育における評価においては、教師のかかわり方が適切であったか、環境の構成はふさわしいものであったか、教師の設定したねらいや内容は妥当なものであったか、などについて反省・検討することが必要である。
- ウ 保育における評価によって、保育をよりよいものに改善するための手掛かりを求めることができる。
- エ 保育における評価においては、幼児が他児と比べてどの程度発達しているか、優劣を捉えることが大切である。

問 9 次の文は、文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集 指導と評価に生かす記録』(平成25年7月)「第1章 専門性を高めるための記録の在り方 1. 学校教育としての幼稚園教育」に示されている記述である。文中の( ① )～( ③ )に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼稚園教育の特徴は、教師があらかじめ一人一人の幼児の発達に必要な経験を見通し、各時期の( ① )を踏まえつつ、( ② )に沿った( ③ )を立てて継続的な指導を行うところにあります。

- |   | ①     | ②    | ③       |
|---|-------|------|---------|
| ア | 発達の特徴 | 教育課程 | 具体的なねらい |
| イ | 教育目標  | 発達段階 | 綿密な指導計画 |
| ウ | 発達の特徴 | 教育課程 | 綿密な指導計画 |
| エ | 教育目標  | 発達段階 | 具体的なねらい |

問10 次の文は、ある人物について述べたものである。その人物名として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

大正から昭和前期にかけて、わが国の幼児教育の理論と実践において指導的役割を果たした。子供を中心とした保育を提唱し、日本の幼児教育に大きな影響を与えた人物として知られる。著書『幼稚園保育法真諦』の中で展開した誘導保育の理論では、子供のありのままの生活を重視し、その生活に中心を与え系統づけて導くことで、子供の生活の充実が図られるとした。

- ア 城戸幡太郎
- イ 和田実
- ウ 坂元彦太郎
- エ 倉橋惣三

問11 次の文は、ある人物について述べたものである。その人物名として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

『遊びと人間』の著者であり、遊びの特徴として、自由な活動、隔離された活動、未確定の活動、非生産的活動、規則のある活動、虚構の活動を挙げた。

- ア パーテン (Parten, M. D.)
- イ ブルーナー (Bruner, J. S.)
- ウ カイヨワ (Caillois, R.)
- エ フロイト (Freud, A.)

問12 エリクソン(Erikson, E. H.)による心理社会的発達理論で示された8期からなる漸成発達において、乳児期から児童期までの4つの期で経験される感覚①～④の順について、最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 自主性 対 罪悪感
- ② 自律性 対 恥と疑惑
- ③ 基本的信頼 対 不信
- ④ 勤勉性 対 劣等感

- ア ③→②→④→①
- イ ②→③→④→①
- ウ ③→②→①→④
- エ ②→③→①→④

問13 楽曲の曲想を示す音楽用語とその意味の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

	音楽用語	意味
ア	dolce(ドルチェ)	力強く
イ	scherzando(スケルツァンド)	おどけて
ウ	legato(レガート)	はっきりと
エ	vivace(ヴィヴァーチェ)	静かに

問14 ローエンフェルト(Lowenfelt, V.)の研究をもとに、幼児の描画表現の発達の時期と、その時期に見られる描画の特徴についての説明の組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 象徴期 —— 身体の発達に伴って点々や手を左右に動かしての横線、肘を動かしての縦線、渦巻きなどを描く。描かれた物に意味や伝えようとする意図はない。
- イ 図式期 —— 抽象的な記号の形を描き、描いた物に言葉で意味づけをする。
- ウ 錯画期 —— 画面の下方に基底線と呼ばれる1本の横線を引き、空と地面を描き分けるようになる。
- エ 前図式期 —— 描かれた物同士に関連性がなく、商品のカタログのようにものを画面に羅列して描く。

問15 洗うことを「きれいきれい」と言ったり、正確には「せんせい」と発音するところを「テンテイ」と言ったりするような、幼児期特有の言葉づかいをあらわした用語として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 反響言語
- イ スキーマ
- ウ スクリプト
- エ 幼児語